

# Y I A 会員だより 2006年3月号

発行：吉野川市国際交流協会・広報部 (Tel : 42-4117, Fax : 42-4499)  
ホームページ URL : <http://www.tcu.or.jp/kamajima/yia/>



## 【3月の活動計画】

	月日(曜日)	時間	会場および問合せ先	行事名および内容	備考	担当
定例事業	3月25日(土)	18:30~20:00	文化研修センター	定例理事会		事務局
	毎週木曜日	19:00~21:00	文化研修センター	英会話教室 講師:アリソンさん		
	毎週金曜日	19:00~21:00	川島教室	日本語教室 講師:手塚功先生 サポーター:住友初美さん		支援部
	毎週日曜日	14:00~16:00	石井教室			
		19:00~21:00	上板教室			
	毎週日曜日	13:00~15:00	文化研修センター	日本語教室 講師:村上瑛一先生		
3月12日(日)	19:00~21:00	治作マンション	英会話フリートーク:アン・中村さん		交流部	
企画事業	3月16日(木)	19:00~21:00	文化研修センター	英会話教室 体験学習	*1	事務局
	3月13日から約2週間程度	9:00~17:00	上板町	出張支援 手塚功先生		支援部
	適宜		任意	訪問インタビュー		
	3月31日(金)	19:00~21:00	文化研修センター2F	日本語教室 金曜の部 打ち合わせ	*2	
	3月26日(日)	12:00~	鴨島駅前	まちかどコンサート	*3	環境部
3月下旬			「国際交流よしのがわ」第2号発行予定		広報部	

### \*\*\*\*\* お知らせ \*\*\*\*\*

*1	*2	*3	*4
<b>英会話にチャレンジ!</b>	<b>日本語教室 金曜の部集合!</b>	<b>まちかどコンサート</b>	
毎週木曜に開かれている、アリソン先生による英会話教室。楽しそうな授業を体験してみませんか?少し興味のある方、初心者の方、どなたでも大歓迎です。 お問合せ:手塚(24-1284)	村上先生の日本語教室、金曜の部が4月から、スタッフを新たに開講します。日本語教師受講生による教室です。それに先立っての打ち合わせがございますので、有志の方、お集まりください。連絡は不要です。 お問合せ:市原(24-5052)	12月に出演予定だった「かえる本舗」です。この方の本職は小松島にあるお寺の、住職さんです。モンゴルやウランバートルの伝統的な歌唱です。 3月26日(日) 12:00~ フリーマーケット 13:00~ 「かえる本舗」コンサート *場所は鴨島駅前、旗を目印にぜひお越しください!	

## 【2月の活動報告】

### 《環境部》

#### 2月26日(日)まちかどコンサートに特別ゲスト

南極以外は世界中、カヌーで旅をしている野田知佑さんが出演してくださいました。

吉野川は日本一の川だという事、地元の皆さんにこの川を守る為に力を貸してください、時間を、労働を、お金を出してください、とお話をされ、ハーモニカで「早春賦」「りんごの歌」「家路」「日曜はだめよ」など十数曲を演奏し、最後は「ふるさと」を合唱の人も歌いながら聞き入りました。

フリーマーケットも今回は特別にアートギャラリーとし、ガラス作家の藤井哲信さん、草木染織の島田ひろみさん、砥部焼の工藤冬里さん他、若い服飾デザイナーも出店し、にぎわいました。

吉野川はみんなで守らなければいけません。野田さんからの熱いメッセージでした。(小林記)

### 《支援部》

2月9日(木)徳島大学の留学生9名が鴨島小学校を訪問し、小学4年生を対象に自国の文化や教育などについて、上手な日本語で話しました。(瀬尾記)



### 《広報部》

#### 2月25日(土)フランス製本体験談

文化研修センターにて、国際理解講座「フランスひとり歩き」の講演を催しました。製本の体験談ということもあり、徳島市内の方からも興味を持ってお越しいただき、10名ほどの参加がありました。海外での体験は人それぞれであり、触れたものも感じたものも、その人独自のものだと思います。今回、製本を通して見たフランス、そしてそこでの生活をご紹介することができ、そこからまた、それぞれの方がいろいろと思い描いてくださったら幸いです。(日野記)



### 《事務局から》

同封のチラシ「にぎわい88」で県がイベントを募集しています。また、H18年度日本文化デザイン会議プレイベント「吉野川にデザイン会議が来る!」3月26日(日)午後2時~4時セントラルホテルにも奮ってご参加ください。(要参加申し込み、定員200人)

～京都ツアーに参加した日本語教室の生徒さんの手記の続きです～

### 「京都ツアー」

ずっと前から待ち望んでいた京都への旅が終わりました。ほんの短い一日だけの時間に過ぎませんでしたが、それが後になって、却って興味の尽きない味わい深く回味無窮、いつまでもそこに遊び続けているようなく流連、想いに私を浸らせるのでした。

早晩、まだ空が暗いうちに起きました。天気が悪く、雨さえ降ってきましたが、それでもみんなの熱意に少しも影響を及ぼすものではありませんでした。きっちりと時間通りに集合しました。そしてバスは早々に出発しました。みんなは多くの外国の友だちと日本語を使って交流し、言語上の障害によって気持の上に齟齬をきたすようなことは少しもありませんでした。一路走行中、みんなは話したり歓声を上げたりして、沿道の風光は私に見る間を与えないほど変わっていくのでした。

日本は、到るところすべて感心するほど少しの汚れもなく、本当に清潔で美しい国土です。知らず知らず、あっという間に目的地—京都に着きました。京都は一つの古い昔風の、そして美しい街です。随処に古い風格を持った建築物を見ることができ、また近代的な高層ビル、高層ビルも少なくありません。将に古今の建築が、ここに完全に共に融合し独特の風景の列を形づくっています。私はバスの席から、この古い文化都市を觀賞して濃厚な文化の氣息を深々と吸いこまずにはいられませんでした。

私たちの最初に立ち寄るところ、京都国際交流協会へ到着しました。そして、センターの各種設備を見学しました。その全く善く整った設備と先進的なシステムは、ここにきた外国人にとって多くの知識を学ぶことを可能にさせるものです。

続いてそのあと、私たちは京都の有名な二つのお寺—金閣寺と南禅寺に行きました。京都は日本で最も多くの寺院を擁する一大都市です。「八百八寺」という言い方がされています。古刹南禅寺、広々とした庭園、秀麗な心とらぐ景色は人をしてそこにいつまでも居続け帰るのを忘れさせる、譲り流連忘返のものでした。後ろ髪を引かれる思いで南禅寺を出発して、私たちは更に金閣寺に向かいました。

堂々華麗な金閣寺は、深々と私の心を揺さぶり続けて止みませんでした。この偉大な建築物とその美しさには驚嘆のほかありませんでした。池の周囲の紅葉が照り映えるさまが更に気高く典雅な風情を加え、そのたまたまは到底この世のものとは思われません、彷彿不在人間、でした。

時間は瞬く間に過ぎていきました。恋々として思い切れない気持で金閣寺を出発し、すぐ帰路の旅に就かなければなりません。

バスの中で、みんなは京都で見聞きしたことを話し合い、一日の楽しかった出来事について喜びに満ちて語り合うのでした。本当にみんな十分に満足する、満載而归、ことができました。多くの新しい友だちができ、いろんな国の人との友好を深め、更に自分が一生懸命学んだ日本語についての自信を増すことができました！ この一日を私は終生忘れないでしょう。

吉野川市国際交流協会が、私たちのためにこのような機会を提供して下さったことに深く感謝します。日本

にいる外国人に与えられた日本の人たちの友好と善意の気持を感じ受けとめています。

そしてまた来年の旅行が行われることを心から期待しています！ アリガトウゴザイマシタ！（原文中国語訳：村上）

研修生 侯 雪 記



～日本語教室でご指導くださっている手塚功さんに、この1年を振り返っていただきました～

### 「タイ人と学んだ一年間」

私は今7クラスの日本語教室を持っており、ほとんど毎日どこかで日本語を教えています。これまで中国人、韓国人などがほとんどでしたが、昨年は漢字圏以外の国、タイの人たちにも日本語を教えました。研修のため一年間の予定で日本に来ていた人たちです。日本に来て始めて習った日本語も一年が過ぎるころには著しく進歩し、本当に教えがいのある生徒たちでした。彼らは3ヶ月毎に行われる日本語の進歩状況テストにも、喜んで参加しました。そして昨年12月に一年間の研修を終え、多くの思い出を持って帰国しました。一年間を振り返りながらの送別会では、すばらしい日本語でスピーチをし、上司より褒めて頂き、さぞ満足したことでしょう。私も本当に嬉しかったです。タイに帰っても日本語の勉強を続けて日本とタイの架け橋になってもらいたいものです。

昨年は合わせて1300時間という、今までにないハードなスケジュールでしたが、熱心な学習者に支えられ無事終えることが出来ました。日本語を教える中で一番嬉しいことは、学習者の皆さんが、どんな場合でも状況に応じた日本語が使えるようになることです。進歩の跡が見えたときほど嬉しいことはありません。この一年本当に良い経験が出来ました。

新しい研修生もすでに来徳し、新たな一年間が始まりました。また忙しい年になりそうです。すでに一月だけで130時間の授業を終えました。今年も学習者のすばらしい進歩を望み、いろいろな目標に向かって進んでいきたいと思っています。

手塚功 記

